

# 福井県民の将来ビジョン 分野別意見交換会 意見概要

## (産業・労働)

- 中国への海外進出支援では、小規模事業者にとっては商習慣、言語教育等の基礎的なセミナーの開催が必要。
- 環境分野では、原発を背負い込んでいるという意識ではなくて、福井県はクリーンエネルギー作っていると胸を張って言える意識の共有を進めるべきである。
- 県内でも県内産業ですばらしい技術を持っているなどを知らない。県の大きなスケールで県内向けに産業、企業、技術の掘り起こしをしてはどうか。
- 中小零細企業で環境問題に取り組むには、コスト増と見合うビジネス性がないと展開が難しい。
- 北陸新幹線、高規格幹線道路の開通で、県外からのお客さんを県内に引き止められる施策が必要ではないか。
- 10年後に一番心配なのは学卒者を含めた労働力確保の問題。
- 製造業の海外進出については、現状として県内の中小の製造会社は加工屋や技術屋がほとんどであるため、輸送やコスト面でハードルが高い。県内の製造業が協力し合える制度や助成が必要ではないか。
- 眼鏡の現状としては80～90%が中国産で、10%が鯖江産という構図である。そこで、福井の眼鏡も食品で言う「安全・安心」など、もっとローカル色を表に出してはどうかと考えている。
- 眼鏡の海外市場の開拓に関しては、中国市場では販路の手だてがない。このため、ヨーロッパ市場を開拓した上で、ヨーロッパから中国に流入させてはどうかと考えている。
- 日本の繊維製品（36億着）のうち9割が海外品で、またそのうち9割が中国製となっている。また、平成18年の福井県の製造品出荷額の2500億円のうち、繊維は10%を占めている。
- これまでは業界として受身の体質で来たので、今後は我々が地場の産業としてブランディングして販売するなど積極的にPRしていきたい。また、地場産業の技術等を守るためにも、後継者の確保・育成が必要である。
- 福井県の機屋は昭和49年に3100社あったのが、現在350社に減少した。現在の大きな政策の流れとして、「外国人経営者・従業員の採用」、「最低賃金の引き上げ」、「70歳までの定年延長」があるが、それぞれに課題はあると考えている。
- 海外進出に関して、中国とASEANの関係でタイ、インドネシア等からは中国国内への流通が難しくない。このような流通経路を検討していかなければならない。

- 10年後には中国でも車自体が珍しいものではなく、高級車やカスタマイズされた部品等がニーズとして出てくる。それまで福井の繊維産業が残れるような環境整備を整えてもらいたい。
- 越前漆器は業務用が8～9割を占めている。海外進出に関しては中国の商品市場の情報提供をお願いしたい。
- 青年部としても新たな技術等を学んでいこうと思っているので、県の工業技術センターで漆器分野を強化するなどの支援をお願いしたい。
- 越前焼の業界では、若手や青年部の名前が表に出てくるようになるとやる気が出てくると考えている。
- 農産物の地産池消ではないが、越前焼の地産地消をお願いしたい。
- 和紙業界は売り方を知らない面もある。例えば、購入者は女性なのに、営業担当は男性であるなど。
- 市場としてはヨーロッパがおもしろいと感じている。ヨーロッパでは壁に紙を貼る習慣はない。全くゼロであるので、そこには可能性があるかと思っている。また、習慣の違いからヨーロッパのデザイナーによると、ヨーロッパには質の良い紙はほとんどないが、日本にはたくさんあると言っていた。
- 若年労働力、若年技術者の確保が困難になっている。職業系高校で建設業関係の学科に進学されている生徒たちに建設業に関心を持ってほしいと思っている。
- これからは、社会資本の維持修繕が大切であると思っているが、県の公社、大学等も含めて、技術研修などを行っていただきたい。
- 建設業の新分野進出支援補助金についてはもっと長いスパンで補助金制度を維持していただきたいと思っています。
- 住宅産業は今後リフォーム事業が主となる。また、福井県には建築関係の職業訓練校がないため、「大工育成塾」を福井でも開校してもらえるよう国へ要請できないか。
- 福井県が小さな地方にあるという条件を活かして、他の都道府県にはない県と団体等が密着していく形で、意見交換会などで議論を深めていってはどうか。
- 若年労働力の確保については、福井の住みやすさ、学力・体力の高さなどをPRしてはどうか。